

# 大停電の夜に

2005(平成17)年11月20日鑑賞(梅田ピカデリー)

★★★★



監督＝源孝志／出演＝豊川悦司／田畑智子／田口トモロヲ／原田知世／吉川晃司／寺島しのぶ／井川遥／阿部力／本郷奏多／香椎由宇／淡島千景／宇津井健（アスミック・エース配給／2005年日本映画／132分）

……クリスマスイブの東京を中心に原因不明の大停電が……。そんなテーマを『日本沈没』（73年）のようなパニック映画ではなく、6組の男女が織りなす切なくロマンティックなラブストーリーとして描いたのがこの映画。監督デビュー作となる『東京タワー』で黒木瞳を起用して大ヒットさせた、源孝志監督が描く、多様な登場人物による6つの物語はわかりやすくまとめられており、観客1人1人の視点で感じる何かがありそう……。さて、帰り道であなたが想うことは……？

## 6組の男女が織りなす現代のおとぎ話……？

『大停電の夜に』とはいかにもロマンティックなタイトル。そして、「今まで言えなかったことを伝えたい。こんな夜だから。一夜かぎりのラブストーリーが、全世代に響く」「一緒にいたいのは“その人”ですか？」という宣伝文句もなんともロマンティック……。

この映画は、源孝志監督が実際にニューヨークで2003年8月14日に起きた大停電事件をもとにつくった、NHK ハイビジョン・ドキュメンタリー「N.Y. 大停電の夜に」を下敷きにしている。そしてそれは、東京という大都会の電気が一斉に消えたという想定の下で織りなされる6組の男女の本音の物語……。そこには当然、楽しい話ばかりではなく、つらく身を切るような厳しい話も……。しかし、それもこれも「大停電の夜に」だからこそ口にできる、という現代のおとぎ話……？

## 映画と現実は大違い！

もし大都会東京が一斉に大停電になったら、新幹線、JR、私鉄、地下鉄はすべて途中で停まり、道路の信号もすべて機能マヒ。そのうえ、高層ビルのエレベーターも途中で停止となれば、大都会のパニックはこの映画が少しだけ描いているようなレベルでなくなることは誰が考えても明らか……。

それに輪をかけるのが、いつ復旧するかわからないというニュースで、そうなれば交通事故を含む大混乱はもちろん、新宿の歌舞伎町を中心として（?）、窃盗、強盗その他の犯罪のオンパレードとなることは明らか……？

「大停電の夜に」などと悠長でロマンティックなことを言われるのは映画の世界だけであって、現実は大違いであることをしっかりと自覚し、国や東京都是「東京大停電の予防」をきっちりしなければ……。

## よくまとめたもの……

この映画の「主人公」たちは、あの『オーシャンズ11』（02年）、『オーシャンズ12』（05年）と同じような大人数で、男女6人ずつのカップル（?）合計12人。しかもその年代は、14歳の少年から75歳の老人までと幅広い。登場人物がそこまで多くなるとストーリーが複雑になりすぎてわかりづらくなるものだが、この映画は「オーシャンズ」と違って日本映画だから、俳優の顔とキャラが一瞬に理解できるため登場人物や場面がひんぱんに変わってもついていくことができる……。

また、全く関連性のない6人の男女のカップルの物語を、後半さまざま縁でつなげていくシナリオも、割と自然で抵抗が少ないもの。ラストはもう少し工夫してほしかったと思うが、全体としてはよくまとめたものと感心できるストーリーに。「大停電」も、解除されればまた「日常」が戻ってくるもの。そんな中、それぞれのカップル（?）の余韻の残し方もグッド……。

## 遼太郎を坂和弁護士目で見れば……？

大人気の法律バラエティー番組『行列のできる法律相談所』に出演する4人の弁護士の目で見ればどうなるのかは知らないが、主人公の1人である佐伯遼太郎

(田口トモロヲ)の出生の秘密をめぐる展開される1つの物語は、坂和弁護士  
の目で見れば、明らかに法的にギモンあり……？

6組のカップル中、法的に婚姻関係にあるのは佐伯遼太郎と佐伯静江(原田知世)夫婦、国東義一(宇津井健)と国東小夜子(淡島千景)夫婦のみ。そして、最もおいしい(?)役は、美人の妻静江と、美人の愛人草野美寿々(井川遥)を「両手に花」状態で持っている遼太郎であり、逆にもっともつらい役は、妻小夜子と長年連れそい、ゆったりとした老後を楽しもうとしていた今や75歳となる夫の義一。

そりゃあ、75歳にもなって、妻の小夜子から「実は、あなたと結婚する前に不倫騒動があり、その時に生まれた子供がいます。今日その子から電話があつて、あの人が今……」などと言われたら、さてあなたは……？

しかし、弁護士の私の目から見れば、戸籍制度がしっかり確立している日本では、そんなアツと驚くような物語はありえないはず……？ したがってこの映画の脚本を書いた相沢友子氏の民法や戸籍法についての知識はどうなってるの、そしてまたこの映画では遼太郎の戸籍は一体どうなってるの、と疑問に思うのだが……？

### 微妙な静江の決断は？

遼太郎と静江の夫婦関係は完全に冷めきっており、静江は離婚届へのサインの準備も完了……。

今日遼太郎にその話を切り出すつもりだったが、そんな日に大停電の夜が……。そして、そこで語られるのは遼太郎の出生の秘密と突然の左遷の報告。

他方、静江にも元カレの木戸晋一(豊川悦司)からの電話が……。そんな中、静江はどんな決断を下すのか……？ 女心の微妙な動きを原田知世が好演！

### 発展可能性のうすい3組のカップル

この映画の中で発展可能性のうすいのは3組のカップル。その第1はカップル5の、14歳の田沢翔太(本郷奏多)と明日乳ガンの手術を受けるモデルの梶原麻衣子(香椎由宇)とのカップル。この2人はかなり不思議なカップル(?)だが、

その行きつく先はしれたもの……？

第2はカップル4の、ホテルマンとして働く李冬冬（阿部力）とたまたま動かなくなったエレベーターの中で長い時間一緒に過ごすことになる草野美寿々との関係。この2人は一瞬微妙な雰囲気になりかけたが、それ以上進展するはずはないもの……。だって彼には、上海で彼を待っている（？）彼女がいるのだから……？

さらにもう1つ発展の可能性がないのは、やっと刑期を終えて出所してきた大鳥銀次（吉川晃司）と、既に結婚し2人目の子供の出産を間近に控えている杉田礼子（寺島しのぶ）とのカップル（？）。たまたま大停電の夜に銀次は訪れた礼子の家の前で礼子を発見し、その後のドタバタ劇（？）の中心になるが、礼子が無事出産を終えた後は銀次はただ身を引くのみ……？

## 唯一発展可能性のあるカップルは？

木戸晋一はうらぶれた路地にある全然流行らないバーのマスター。いよいよ、今日で閉店という日に大停電の夜にめぐり合うことに……。屈折した孤独な男という役柄は豊川悦司にピッタリ！

こんな流行らない店をいつも見守っていたのが、すぐ前にあるキャンドルショップを1人で営んでいる叶のぞみ（田畑智子）。ローソクの火を心から愛していることが、火をつける時にいつも言う「あなたに幸せが訪れますように」とのセリフに表れている。こんな大停電の夜には、キャンドルショップは救世主になるもの……。

そんな中、のぞみがローソクをもって晋一のバーを訪れたことから始まる2人の会話は実に魅力的……。そしてまた、こんな大停電の夜にオープンしている店などないのがふつうだから、こんな夜に開いていると、思いがけないお客が訪れるもの……。

全く縁もゆかりもない、大鳥銀次と国東義一そして草野美寿々がこの店に集まり、そこで語られる会話も、つくりゴトだとわかっているも実にいい雰囲気。すべての会話が終わり、大停電が解除された後の、晋一とのぞみカップルの発展の可能性は……？

2005(平成17)年11月22日記